

フィリピン先住民にみるケアの原点

下平 唯子 (東京女子医科大学看護学部)

フィリピンは大小7000の島々から成る国である。海に隔てられている島々には固有の先住民が生活し、島によって文化や生活習慣が異なっている。本日紹介するのはフィリピンで7番目に大きいミンドロ島で生活している先住民族であるマニヤン民族の日々のケアについてである。

私とマニヤン族との出会いは、約15年前にさかのぼる。山谷にある路上生活者のためのフリークリニックでボランティアをしていた筆者は、宣教師の紹介でフィリピン先住民族の健康状態について多くの課題があることについて知ることになる。幸運にもトヨタ財団研究助成を受けることができ、定期的にマニヤン民族の健康について関わる機会を得ることになった。

ミンドロ島のマニヤン民族は8つの部族から構成されており、私が医療従事者として関わったのは、その部族の一つであるアラガン部族である。首都のメトロ・マニラからはバスとフェリーを乗り継いで2日間を要する山間部にあり、もちろん電気、ガス、上下水道、トイレなしの環境で、茅ぶきの高床住居に生活している。結核の蔓延、マラリア、消化器感染症などの罹患率が高い要因の一つに、当時は手や体を洗う習慣がなかったことも影響している。アラガン部族は文字をもたず、布教のための修道女が入植するまでは、人々に名前がなかったという。

講演では、悪霊や死者の霊、呪術が病気の原因とされているアラガン部族にあり、寝たきりとなった老親をケアしていたある家族を紹介したい。感染症が蔓延する状況を何とかしたいと意気込んで訪問した筆者自身がそこで見たものは、手を使ったケアの原点ともいえるものであった。そのケアが“わざ”といえるものかについては会場の皆様と討論できることを願っている。

感染症から生活習慣病へと疾病構造の変化を遂げた日本の医療現場では、自動血圧計や酸素飽和モニターで即時に脈拍が表示されるようになってきた。手を使って脈拍を測定するというケアの原点すら危うくなってきていると感じるのは筆者だけであろうか。高度先進医療における看護のわざの中でも手を使ったケアについて、いまだに伝統医療に依存している先住民族におけるケアを参照にしながら、ケアの原点について振り返る機会としたい。

フィリピン先住民にみる ケアの原点

2012年10月6日
東京女子医科大学看護学部
下平唯子

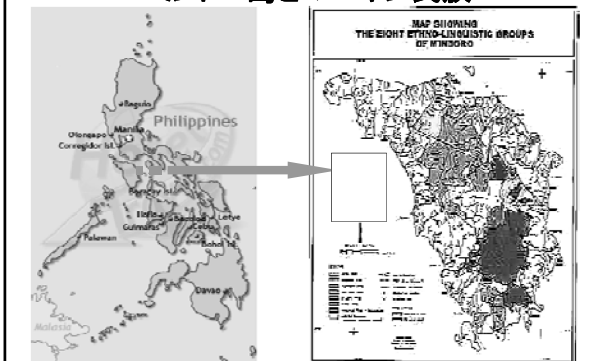
1

フィリピンの基礎情報

- 歴史: 300年間のスペイン統治、日本・アメリカの影響
- 宗教: アジアで唯一のキリスト教国
- 地理: 7000の島; 島ごとに固有の民族と文化が発展
- 民族: 100以上の民族からなる多民族国家
- 気候: 熱帯モンスーン; 高温・多湿(竹文化)
- 産業: 稲作、プランテーション
- 貧富の格差が大きい
- 経済状況: 海外への出稼ぎ労働者が多い

2

ミンドロ島とマニヤン民族



村の全景

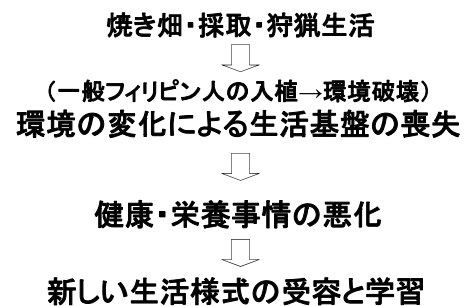


Siapo村の紹介

- 西ミンドロ州サンタ・クルス市から約30km奥地
- アラガン部族
- 30世帯(150~200人)
- 茅葺の高床式家屋
- 義務教育: 小学校 生徒約50名
- MIC修道院: 教育支援と布教
- 電気・上下水道なし・手押しポンプ3台
- 宗教: 自然崇拝、アニミズム、キリスト教

5

伝統的マニヤン生活様式



6

アラガン部族の病気

- マラリア
- 結核
- 消化器系感染症(下痢・胃腸症状)
- 風邪(小児は肺炎に移行)
- 栄養失調による眼疾患、皮膚病

7

村の人々



8

伝統的スタイルの老人と子ども



伝統的スタイルと現代風女性



茅葺の高床式家屋



11

自然観

- 大地と一体感
大地と人間は兄弟である。
大地の土が体につくことは自然なこと
(手足や体を洗う習慣がない)
- 犬も兄弟、だから高床で一緒に生活する
- 人間生活に必要な物は全て森の木から得た。常に自然に感謝して生活する。
→自然との共生

12

健康のとらえ方

力強いこと



症状

健康や病気という言葉はない
健康は力強い状態であること
病気は頭痛や腹痛で表現する

13

病気の原因

■ 森の悪霊 (Bukaw) 19種類

例) Balagis (犬のような形をしている)

⇒ 腹痛をおこしたり腸の働きを悪くする

Bantilaos (水中に住み、蛇のような形をしている)

⇒ 人々の手足を赤く腫脹させる

■ 死者の霊 ⇒ 下痢や腹痛をおこす

■ 呪術

■ タブーや日常習慣を破ったとき

14

病気の治療法

■ 原因が明らかな場合 ⇒ 薬草 切り傷・打撲・やけど・虫さされ等

■ 森の悪霊や死者の霊 ⇒ 薬草と呪術 例) 鶏や豚を殺し、腸や脾臓の様子から 将来を予測する

15

悪霊と死



- 生後5日目
- 犬の形をした悪霊に太ももを咬まれ腫脹と高熱
- お祓いの効果なく生後10日目に死亡

予防・治療上の困難

- 年齢不詳
- 移動する民族
- 大地と一体という自然観(手洗い習慣なし)
- 悪霊や死者の霊が病気の要因
- 自然と伴にある時間の観念
- 病院や針に対する恐怖心


17

寝たきり老婦人と家族

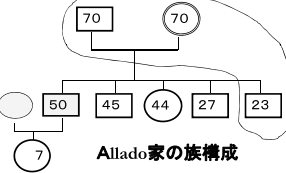


安楽枕 ⇒

家族ケア



竹の平行棒を設置し、力紐を使い起き上がり、寝たきり予防のための下肢の筋力維持訓練を実施していた。
(4男の考案による)



Allado家の族構成

19

家族によるマッサージ



母親の無言の手招きに応じ、末梢から中枢へリズムカルに上肢のマッサージを始める。

15分経過した頃に母親は気持ち良くなったのか入眠する。


4男自らの考案による

20

寝たきり要因のとらえ方

MAMAW
(人の姿をした悪霊)

人間の姿をした悪霊(MAMAW)の鋭い牙に腰を噛まれ、腰痛となった。
連れ去られた魂を取り戻すためにお祓いの詩を歌う。
1週間ほど続けたが効果がなかった。
(4男への聞き取りより)



身長が茅葺屋根の高さまである悪霊 ⇒

21

ケアの伝承のために 言語化(1)

- 情報収集(母親の手招き)
- 臨床判断(経験知より倦怠感と推察)
- ケアの実施
(末梢から中枢に向かってマッサージ)
- ケアの評価
(母親は気持ち良くなり入眠→ケアの終了)

22

ケアの伝承のために 言語化(2)

- 問題解決アプローチ
- 倦怠感を訴える患者への安楽のケア
- ケアプラン
 - 安楽枕を用いた体位交換
 - マッサージによる末梢の血液循環を促す
 - そばにいる、触れることによる癒し
 - 母親の安楽を願う家族の思い・心

23



24